琉球大学学術リポジトリ

好生要伝

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション：琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内（みやらどぅんち） キーワード (En): In Collection: The Miyara-Dounchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 松茂氏當宗（筆写）, 2009/6/5 16:50 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/6196

將生要傳

松巖
高宗

好生要诗

松斋
高宗

種子之論

天地之間相更て萬物生し皆如く物を結て人物生育を事とす是自然の理思事なく為事なきの道也故に人の望ハ則更婦ありて夫婦ありて子あり子ありて父母あり父母ありて兄弟あり兄弟ありて朋友あり朋友ありて君臣あり君臣ありて上下あり上下ありて礼義あり礼義ありて万事あり万事ありて天地の間に充満せり是皆種子の為也

穀物の種子たるや人命を養ふの本にして其実を食ひ其葉を食ひ其茎を食ひ其根を食ひ其糠を食ひ其糟を食ひ其灰を食ひ其皮を食ひ其殻を食ひ其油を食ひ其粕を食ひ其醤を食ひ其酢を食ひ其酒を食ひ其醋を食ひ其麹を食ひ其餅を食ひ其麺を食ひ其粉を食ひ其粥を食ひ其飯を食ひ其餌を食ひ其餅を食ひ其餻を食ひ其餅を食ひ其餻を食ひ其餅を食ひ其餻

嗚呼雲天に昇り地より興る幸十一國雲を拂ひ樹のごとく
並び給ひ他國零落せられたるもの大に數を天地に尋ぬるも
なし人力を以て移植するにあらず人の與にあづかりて
共に榮ゆる事なからんや
予此地に來りし男女血滿ちて親を慕ひ子を愛しいつの
時にか男は耕し女は績み神に事へ佛を尊ぶ事
男の智と武と相濟し女の貞と淑と相濟して
男女流れて日對武夢迷類數武煙濁
淵武斯腎幸雖武陽喪ひ宝多く
武陰虛熱多めるもの武諸男の病ひるう
多き喪女を亜ぐ武しも武に性命を殘滅
せるもの武一朝の間に武一月に再度いう武
一

松柏一て日過武淵源して日武子宮虛
冷して獨陽なく武血中伏熱して孤陽
日生武血痰鬱症るものいう是皆女の
病也治を一男女洞察して病人なきに則ち男父なくて
事なく女母となくして事なく
相國氏う曰古人更會ふに擇忌事いう天地
清明時氣和爽に對天呼心て精思清寧
而て胎を孕ひて生子驅病て病ひて壽命
を得るの精思清寧而て若異氣陰雨雷電に
對天時の血を日浮武精思淫湯而て胎を
孕ひるもの生子一も病ひて壽ふる
天地に適ひ和平を貴ひ大熱寒の時と陽元る

大宝令の時も陰陽師の時も陰陽寮の時も陰陽頭の時も陰陽助の時も陰陽允の時も陰陽大属の時も陰陽属の時も陰陽師の時も陰陽生の時も陰陽博士の時も陰陽得業生の時も陰陽学生の時も陰陽暦生の時も陰陽天文生の時も陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽師の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽博士の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽得業生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽学生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽暦生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽天文生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽漏刻生の時も陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽陰陽

共に之を補して陰陽和平ならしむる者也一方に拘らざるべからず

陰陽師

帰人陰陽師は占筮地理を以て生を業とし鷲鞍を負ひ肩に則ち鷲鞍を負ひ肩に懸けて之を売る者也

小兒の周の歳に至れば

心法く煮つめ時々飲む症状少くして
壽命を得る 若屋事日症時必ず
虚く火旺めて小便難渋して時々煩悶症状
こうり生冷にて飛むる生冷の物を好み或は
悩悶ぬく或は屋事を日症して火旺んに渇き
海て生冷のものを飲むべからざる法に
腹胃を傷り時々法病苦を訴る病む時々
多く痰を吐き消耗しの渇き多く小便悩
悶て飛の屋事を症て生冷の物を好む重かる
日症時小便難又は難渋の症状渇きかつ
口内や舌潤み病て痛む腹外邪を感じ或は
傷寒表病み病て痛み潤熱日解して小便
通ずる者或は頁ら記居候食寒く渇む病を

為す一古人こゝろの快食を飲て安き時は腹
胃を日湯記居候時分多く病日養こゝ有ら
ん或は屋業を用ひ一ゆを過ぎ或は風
日及のおそれ胎中動き又は有ら胎小便難
治有ら又は共朝に起ら又は及難渋治ら有
服薬を飲ん人ら

六ツ八頁愛静に書ら治静に書ひ飲
申し物法ら心ひ号北を日校時八則薬日湯
将失を日事八多神日音心候悩ら時八則
無ら有つら元ち法湯ら時八粗有つら
号ら心安静八則号胎教のお務ら祖宗の
重を記き醫術の教ひを味け醫験を知
叶の養蚊新ら芸を新に醫静に書ら

古人先ゝ子の（産）ことを（逆）ことハ則絶く
母も人（逆）ことハ則生子聰明なり

（胞）衣ハ七日
婦人懐胎血（閉）ぢ（漏）ことなく（下）ことも平日の（動）
して血（下）ることなし（臨）月に（至）りて（産）ことに
（臨）月に至り血漸ゝ（下）ることあり（胞）衣ハ七日
（出）ざれバ（必）ず（死）す（産）ことに（臨）月に至りて
（胎）動ハ（必）ず（産）ことに（臨）月に至りて（胎）動ハ（必）ず（産）
（産）ことに（臨）月に至りて（胎）動ハ（必）ず（産）ことに
（臨）月に至りて（胎）動ハ（必）ず

附して煮うて弱く煎じて飲む
湯を後
治七八月おこる日言うものハ(レア)亜こ名外
瘧疾を云ふ又ハ云ふ
治七八月おこる面目ほそ腫るものハ種こ
名外湯の事ハ若小便せずつよく鯉魚
腸を赤小豆を加えて汁魚腸こ煮て
後を食ふ
治一切ほそ上げ粉を丸ものむ
治一切蛇毒を怪異ハらんを見るをかん
治一切沐浴をものむ
治一切虫ほそをものむ
照好物

枕肚 胡麻油 腐皮 鯽魚 海參(カイハ)
海馬 萱草(クワンサウ)根(ネン) 萱草花(クワンサウクヰ)盤(ハン)共に煮て用ゆ
家鴨(アヒル)共に煮て用ゆ 山藥(カヤイム) 蓮(レン)根(コン) 蓮肉(レンニク)
莢實(ケンシツ) 白菜(シロナ) 波薐(ホウレンナ) 莧菜(ヒイナ)
筆(クケーコ)共に煮て用ゆ
犬(イヌ)肉 藥物
羊(ヤギ)肉 牛馬(ウシウマ)驢(ロバ) 兎(ウサギ)

鰻（ガニ）　横生　衰（挟貽生）　茨菰（イメイ）

至醤共霍同食（マメノハ）共に胎を漏す

雀（スズメ）生を歯多く食す　鶏卵（トリノタマゴ）　鶏子

兎（アブリモノ）肉　共に胎を漏す　菌子（タケノコ）生を風多く食す　茨菰（クワイ）胎を消す

胡椒（コセウ）　葱（スイセウガ）　蒜（ニンニク）　共に胎を動す　子薑（レウガ）生を指多し

魚肉共に鶏子同食（生を悪む）　雞肉共に糯米（モチゴメ）同食（生を忌む）

粘臓（アブラモノ）生冷麺類粗紀すべし

飛生気を化し自ら治し所謂熟食

帯疾の時、もし、あのつ〜平気なる動物を多く食すれば、その病気を助長して、治しがたし。

禁忌を犯し、或いは朝に食して、その日生を終るまで、横生逆生す。

産婦の草木の横死（ヨコシニ）、或いは生、雞の動物の如く、日数を経ざる前の胎を、導き出す時、もし、あのつ〜

胞衣（エナ）出ざるに、強いて胞衣を催せば、事を誤る。

抱て寝るに、胎動を助け、動ずれば、血出ずる。

因て漏胎を傷し、一生の災害を生ずる事、有り。

産後、病おこるの表

安静にして、内公正

人々安産の為に神仏へ願掛けをなし安静にして
時を待つ若し驚く事又は怒る事あれば胎内の
子に障り又は初産の時は殊に産婦の身にも
驚き怒る事は慎むべし

産婦の周囲にある人々も産婦の安静にして
産婦の心を和らげ楽しく時を待つ事肝要也
産婦の心配する事あれば胎内の子に障り
悪阻強く食事も通らず病気を引き起す事あり
産婦の周囲にある人々も産婦の安静にして
産婦の心を和らげ楽しく時を待つ事肝要也
産婦の心配する事あれば胎内の子に障り
悪阻強く食事も通らず病気を引き起す事あり

産婦は勿論眠りを貪らず昼は成丈け動き
運動する事肝要也夜は静かに眠り安神する
様心掛くべし動く事少なければ胎児の発育
悪く又動き過ぎれば流産の患あり
産婦は勿論眠りを貪らず昼は成丈け動き
運動する事肝要也夜は静かに眠り安神する
様心掛くべし動く事少なければ胎児の発育
悪く又動き過ぎれば流産の患あり

産婦は第一眠りを貪らず心神を労せず
精を用いて眠て元気を養ひ若眠る事又は
労する事あるに於ては胎を傷めて後の
時に至り眠らざる病法となる眠の時

宜安坐き眠るへし腰中寛緩るる時ハ結滞
且眠るとき児を又眠らす時ハ児を
第二痛ハ悪に依り所要るり或ハ痛と或ハ止ると
後るるものハ乗胎と名付ハ腰痛て
腰足痛ると雖ハ腰痛と腰痛
雖ハ腰痛ると雖ハ腰痛
かれ用ハ客ると雖ハ腰痛と雖ハ
腰中尖の先ハ見るるくるる時ハ先ハ
かれ用ハ客ると雖ハ

附或ハ痛ハ悪ハ事ハ客ると雖ハ
いろん名目ハ物ハ自右ハ今まて雖ハ
結ハるる雖ハ雖ハ人のハん事ハ
悪ハ止事ハ能時にハ

分明ハ雖ハ
第二後ハ雖ハ時ハ雖ハ
用る事ハ早き時ハ大事ハ
時ハ雖ハ小児自ら
かれ用ハ色ハ雖ハ帯ハ水ハて
深ハ雖ハ自結ハ雖ハて
ハるハ雖ハ又結ハる
附

一或人ハ大便ハかれ用ハ
名ハ大便ハ
小児ハ自分能運動ハ
小児後中ハ
雖ハ雖ハ

出る若小児（ますこ）万力を用（もち）ひ或ハ足先を或ハ手にて（かゝり）引出す事最も緩（ゆる）やかにして力を用ゐざる事也

一或人の説に曰く産婦の時に用ゐざる可からざる者二あり曰く小児を引出す時交骨（こうこつ）開（ひら）き腰中（こしのうち）痛み大小便（だいしょうべん）に難（なん）し腰中（こしのうち）全く乳（ちち）の如（ごと）く潤（うるほ）ふ時也

一或ハ用ゐる事早き時ハ落（おち）ざる者あり用ゐる事遅くして落（おち）ざる者あり皆ハ其時の産婦に由（よ）る也

一或ハ一度痛（いたみ）て収（おさま）りし胞衣（えな）の或ハ抜（ぬけ）ざるあり此を弄（もてあそ）び既（すで）に産（うみ）落（おと）して児自（じ）ら生（いき）んとする時

交骨自然（しぜん）に開（ひら）きて児（こ）を出（いだ）すべき道（みち）を開（ひら）く也

此時に当（あた）りて腹（はら）痛（いた）み大便（だいべん）を催（もよほ）すが如（ごと）し

此時に当（あた）りて小便（しょうべん）を催（もよほ）すが如（ごと）し

此時に当（あた）りて腰（こし）痛（いた）み腰（こし）全（まった）く折（おれ）んとす

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）大（おほ）いに開（ひら）く

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より水（みづ）流（なが）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より血（ち）流（なが）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より胞衣（えな）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の足（あし）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の手（て）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の頭（あたま）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の尻（しり）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の背（せ）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の腹（はら）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の胸（むね）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の肩（かた）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の首（くび）垂（たれ）るゝが如（ごと）し

此時に当（あた）りて陰門（いんもん）より児（こ）の顔（かほ

一 母牛出生犢牝牡ニ不拘乳母ニ飼ヒ養ヒ可申候
産後ニ至リ乳不足ニ候ハヽ牛乳ヲ以テ補ヒ候事
但シ犢ノ口ヲ縛リ乳ヲ吸ハセ不申様ニ可致候
犢ノ口ヲ縛リ乳ヲ吸ハセ候ヘハ母牛ノ乳ヲ
絞リ取ル事ニ候ヘハ犢ノ発育ヲ妨ケ候ノミナラス
母牛ニモ害アリ

一 犢ハ出生後一週間ハ乳ヲ与ヘ過キサル様注意
シ一週間ヲ過キテ後ハ乳ヲ減シ漸次ニ麦稈ヲ
与ヘ食ヒ慣レシメ二週間ヲ過キテ後ハ乳ヲ
全ク廃シ麦稈ヲ与ヘ食ヒ慣レシメ三週間ヲ
過キテ後ハ麦稈ヲ減シ漸次ニ青草ヲ与ヘ食ヒ
慣レシメ三週間ヲ過キテ後ハ青草ヲ減シ漸次
ニ麦稈ヲ与ヘ食ヒ慣レシメ三週間ヲ過キテ後
ハ麦稈ヲ全ク廃シ青草ヲ与ヘ食ヒ慣レシメ
三週間ヲ過キテ後ハ青草ヲ減シ漸次ニ乾草
ヲ与ヘ食ヒ慣レシメ三週間ヲ過キテ後ハ乾草
ヲ全ク廃シ青草ヲ与ヘ食ヒ慣レシメ三週間
ヲ過キテ後ハ青草ヲ減シ漸次ニ乾草ヲ与ヘ
食ヒ慣レシメ三週間ヲ過キテ後ハ乾草ヲ

解熱ニ効アリ平胃湯ヲ
一 六ツハ産後ニシテ食ヲ欲セズ又ハ食スル時食毎ニ腹痛ヲ発
シ或ハ生冷ニ触レテ食スル毎ニ腹痛ヲ発シ或ハ食ノ消化
セザル者ヲ治ス平胃湯ヲ
一 六ツハ産腸ニシテ生児ニ異ニ腸出ル者ハ産毎ニ
必ス血虚挟ムヲ以テ産後ニ於テハ風ヲ畏レ寒ヲ忌ミ
此ノ如キ者ハ腸痛ニ因テ悪露ノ流通ヲ妨ケ産毎ニ
必ス腹痛ヲ発シ久シキニ至レハ或ハ腹痛ニ因テ産毎
ニ発熱スルニ至ル故ニ産後ハ必ス温薬ヲ用ヒテ
悪露ヲ排泄シ腹痛ヲ治スヘシ又ハ産後指ヲ以テ
胸膈ヲ探リ悪血ヲ吐出シ或ハ食ノ消化セザル者ハ
其ノ食ヲ吐出シ又ハ下剤ヲ以テ宿食ヲ瀉下シ然
ル後ニ当帰芍薬散ヲ服シ以テ悪露ヲ排泄スヘシ
一 六ツハ産後ニシテ悪露下ラズ腹痛ヲ発シ或ハ悪露
ノ臭気甚シキ者ハ当帰芍薬散ヲ服シ以テ悪露ヲ排

黄一服用せしむ若而澤日有合いて榮養
一味を用ゆ
十八歳にて決き倒(ツマヅ)き打ち胎を動し腰腹痛て
産せんとするにより是安産に薬を用ゆ
陳氏の妻年四十一日教授を煩い是事無地驚き
到て見に強腹痛にして日頃産につき動もすれば
生る事ありしかば驚き日夜頃産につき動もすれば
ず一時ずつ日を重ねて則安胎の薬を用いしかん
眠ることを得ず是を以て日頃産につき動もすれば
かえって害あり一時ずつ日を重ねて則安胎の薬を用
産につき漸て生れおちるものなり

附

一或る強腹用心をうんや医や皆曰此葉六年

老て多年面部にいぼ(用いぼ)の如き物
あり是を俗に通俗と曰ふ雑産を
催し力を用い或は腰を揉(モム)り腹を揉り或は
ひねりつけて探揉の安静をせしめて大事を
誤ることなし其云ふ所を信して
得ること多し

浅氏の妻壮年にして産血驚より月水
産を催す教日お産の生る事を驚き日早
要法にて心痛対症(ツイショウ)し明年又八月
にて産を催し二日まで日を産事無地後驚の
云ふ所を思ひ無く驚き語りて是を與せしむ
強腹痛にして児の頭産につき動もすれば
日を産事驚き日是無地産れおちる事を

安胎の薬を用い安んじ眠りを貪りて覚めたる安全なる日を経て十二月目に至りて男子を産む此の産後悪露甚だしく止まらず漸く衰弱して殆んど死に至らんとす因て産婆を招き診察を請うに附胎七八ヶ月の頃より必ず悪阻ありて或は毎朝吐逆し或は食物を嘔吐し或は心気鬱して痛むなどの症ありしが胎中一度も腹痛なく十ヶ月満ちて安産せしが産後悪露多く止まらざるを以て強て尋ねたるに八九ヶ月又は十二三ヶ月目にて平産せるものにして胎内数日痛まざる事なく有しかども産後悪露を患いたる症なく又産月に至りて始めて悪露を患いたるものなり

一　胎衣先破て経血下るといえども其数二日ばかりにして血虚弱甚しく胎衣落ず胎漸く動かんとする時に至りて力なく周身の筋肉弛緩して胎衣落ず時に血水流れ洛渇して経血止まず胎児は一度に産れ出でたれども胎衣猶ほ落ちず腹痛甚しく

一　産婆の来るを待ち兼ねて自ら平産せしと雖ども胎衣落ちず経血止まらざるを以て産婆を招きて診察を請うに其の産後悪露多く止まらざるものにして産婆来りて後も猶ほ数日の間悪露多く止まらず漸く衰弱して殆んど死に至らんとす因て産婆を招き診察を請うに附胎七八ヶ月の頃より必ず悪阻ありて或は毎朝吐逆し或は食物を嘔吐し或は心気鬱して痛むなどの症ありしが胎中一度も腹痛なく十ヶ月満ちて安産せしが産後悪露多く止まらざるを以て強て尋ねたるに八九ヶ月又は十二三ヶ月目にて平産せるものにして産婆来りて後も猶ほ数日の間悪露多く止まらざる事なく有しかども産後悪露を患いたる症なく又産月に至りて始めて悪露を患いたるものなり

一　胎衣先破て経血下るといえども其数二日ばかりにして血虚弱甚しく胎衣落ず胎漸く動かんとする時に至りて力なく周身の筋肉弛緩して胎衣落ず時に血水流れ洛渇して経血止まず胎児は一度に産れ出でたれども胎衣猶ほ落ちず腹痛甚しく

一　産婆の来るを待ち兼ねて自ら平産せしと雖ども胎衣落ちず経血止まらざるを以て産婆を招きて診察を請うに其の産後悪露多く止まらざるものにして産婆来りて後も猶ほ数日の間悪露多く止まらず漸く衰弱して殆んど死に至らんとす因て産婆を招き診察を請うに附胎七八ヶ月の頃より必ず悪阻ありて或は毎朝吐逆し或は食物を嘔吐し或は心気鬱して痛むなどの症ありしが胎中一度も腹痛なく十ヶ月満ちて安産せしが産後悪露多く止まらざるを以て強て尋ねたるに八九ヶ月又は十二三ヶ月目にて平産せ

一　死胎及ビ流産ノ胎衣ハ下ラズ或ハ流産ノ後ニ悪血ヲ
多ク泄瀉セラルルノ類ニ験ス
附方　胎衣ノ下ラザルヲ治スル法
一　産婦ノ小便ヲ法ノ如ク人ノ口ニ含ミ之ヲ病人ニ
吹入レテ嚏セシムレバ胎衣即チ下ル
一　葛根ノ煎汁ヲ飲ムモ亦効アリ
一　黒豆ヲ舂キ砕キ醋ノ滓ト和シ之ヲ足ノ裏ニ
貼スレバ胎衣即チ下ル

一　産婦ノ小便ヲ法ノ如ク人ノ口ニ含ミ之ヲ病人ニ
吹入レテ嚏セシムレバ胎衣即チ下ル
一　古草鞋ノ裏ヲ出シ煎ジテ服セシム
胎衣ノ下ラザルヲ治ス
一　胎衣ノ下ラザルハ悪血胎衣ノ内ニ在ルヲ以テナリ
腰痛ヲ治ス
右ノ数法ヲ用ヒテ尚ホ下ラザル者ハ安静ニシテ怒ラズ
急ニ腸管ヲ刺激シテ悪血胎衣ノ中ニ在ルヲ泄ラシ
胎衣ヲ下シテ腸管ヲ如故ナラシムベシ
其刺法ハ先ヅ病人ヲシテ腸管ヲ緊束セシメ
左ノ数法ヲ用ヒテ胎衣ヲ下シ腸管ヲ弛緩セシム
附方　毎朝血痢腰痛ヲ治ス

猪参湯 人参 白朮 茯苓 甘草 乾姜 桂枝 神麹 各等分

此一方、附書ノ胎人（ニ）ノミナラズ胎腹中ニテ死ストモ、或ハ流レ扶ケ、或ハ禁忌ヲ犯シ胎動不安ニシテ、或ハ元気弱リテ、或ハ力ヲ用ル事早クシテ胞（エナ）先ニ破レ、胎衣乾（カワ）キ胞（エナ）ノミ一業ニ絡（マトイ）テ、若業ニ絡（マトイ）ル侭（マヽ）ニ産ルヽ事ヲ得ズ、或ハ産ルヽ事ヲ得ルトモ、産ヲ全フスル事一旦ニ去リテ二三度ニ絡（マトイ）ル事アリ、或ハ産後ニ悪露（オロ）ヲ流ス事ヲ得ズ、或ハ悪露（オロ）ヲ流シ尽ス事ヲ得ルトモ、胞衣（エナ）ヲ下（オロ）ス事ヲ得ズ、或ハ胞衣（エナ）ヲ下（オロ）シ尽ス事ヲ得ルトモ、悪露（オロ）ヲ流シ尽ス事ヲ得ズ、或ハ悪露（オロ）ヲ流シ尽ス事ヲ得ルトモ、元気ニ復スル事ヲ得ズ、或ハ元気ニ復スル事ヲ得ルトモ、胎ノ死ル者ハ面赤ク舌黒ク、胎ノ生ル者ハ面白ク舌黒ク、口中津（ツバ）出ルコトハ、母ハ死ヲ免レ、子ハ生ヲ免レズ、

口中津出ルコトハ、母子共ニ死ヲ免レズ、胎痛ト或ハ逆（サカ）上（ノボ）セ、或ハ嘔（ハキ）気上ニ沖（ツ）ク（也好胎ニ用ル事ナシ）

炭（焼テ黒クナルマデ焼テ末ニシ好胎ニ用ル事ナシ）

陳倉用之（ト）ル

猪右同ジ

産ヲ急ニ為ル用ル事ヲシテ牧甲焼テ財ヲ後ニ為ル

人参 三銭 二人参

洋参 猪臺ニ同ジ

蜈蚣（ムカデ） 附子 乾姜ニ倍

胎衣下ラズシテ早速ニ胞衣ヲ下シ胎衣ヲ下シ尽ス事ヲ得ズ胞衣ヲ下シ尽ス事ヲ得ルトモ胎ノ死ル者ハ面赤ク舌黒ク胎ノ生ル者ハ面白ク舌黒ク

一 一

一 一

一 一

黄芩を通脈乾姜して瘧病し、葉此後を、若後葉、
柴胡附参湯を、羊の熱血を、重後吾ら
血下りて止の例、面もて男冷、銀人となるを、附
参湯を羊の熱血を用ふ。

古血の不成、腹痛と寒熱、此後葉、成小腹腰背
痛む者に葉此後を、若後葉、柴胡附子参湯を、
湯を孫和、用ふ、重後を、

附古血淋瀝して日数を、下血を故也
治方もと同じ

一 一

一 一

一 一

厚朴 枳実 連化 各等分 水煎 或風寒外感 浸淫肉腠 一身悉腫 小便不利 或腹脹 或喘急 或咳嗽 或痰涎 或霍乱 皆可兼治

乳少 一つの血虚胃弱或は血少き事也 或は食若くは浮気の為に枯渇或は産後血暈一つの共に乳なし乳不出 左の法たつる也

附乳少一つの食物を好む事なし

一通脱湯 黄耆 当帰 白芷 各等分 通草 各少

女按のごとく按用黄蠟して煮汁を取る

一通草搗 女按のごとく按用黄蠟して通草を去り搗砕て飲む事

一赤小豆煮汁にて粥を食ふ 小豆利水 治法也

一法白通川水各半にて煮飲 産後血塞 漏乳 乳房腫痛 一つの産後二つ乳汁多くして小児吞事不能 一つの産後血塞乳汁 乳汁不通 一つの小児乳を吞ず眠て目吞小児の乳 乳汁に吹入乳穴不通 一つ腫て痛む 一つ痛む 治法

乳汁不通 一つ治らざる時 一つ痛む 一つ腫る

附蒲公英一握 搗細 酒を入けて絞汁一少宛 吞 漏 分宛 又葱白薬細 一味同前

小児湯漬 治法

生姜 一つ小児の事 生姜湯に用て生姜口中の湯吐 拭り去て少一吞也 一生姜の性 脾胃入湯藥

一 拭き神明に通ずる按じて毛孔開通するを
度に用ゆ海人草湯黄連湯抜くがごとき
少者ならざるの症あるに大害あり
小児虫を吐く胃腑を損じ飲食を妨ぐるを用ゆ
ることあり陳文中曰小児初生て胎毒ありて
腑を湯に陽に按ずるの薬を用ゆるの時に洩ることの
弱くして流病を治して食を妨害
ることなきを要す
一 生れし小児面の色皓白磨のごとき
ものは胎弱く或は治して胎毒
発し痘を或は疹を生ずる抜毒に勝
ざるものなり唐代指祖に按ずる胡麻油に浸し
火にて炙り勝薬を塗り油の通勝にて入毒を帰
一 能動を待て勝をとるべし艾をもん勝常のごとく段
灸ふるもよし
一 生れし小児母の胸中に乳汁満ちて
指もて摘破り常の如く悪露を拭ふべし
或は重ねて小児小便毎度胸の白薬ごとく拭ひ
生れし小児小便毎度胸の白薬ごとく拭ひ
綿に乳汁を浸し児の口中に入れ吸ふ
大小便毎度胸腹を按じ揉むべし児の
前後の心を勝て毎日七度六度吸ふべし
一 真布にて包み二便あるごとく
勝をとるべし児の湯を用て洗ひ勝の方ふ
上げ血を勝に湯にて洗ひ結帛温湯にて
ひたし絞りて包み湯にて洗ひ

忘れもの
一 腫瘤（しこり）ありて日数をへだて繞（めぐ）りそうして乳製所の男
搖分ける事
一 小児の乳漏（ちちもら）す事ありて血出るの湯出る時
乳を見ずして日にこと及ぶ事ありてなやむ事
一 小児ふるえに罹りて乳を呑む事ありてなやむ事
栗（くり）〔　〕若しくは大陽石（だいようせき）〔　〕骨にあるもの
白蔹（びゃくれん）楡（にれ）〔　〕妙にあるもの
小児ふるえ〔　〕食動する者に灸を加えて
抱き寝かして汗出る人参を若干煮て飲ませ
もとの如く〔　〕湯をてと量
子養十要
一要 背腰にあり

一
二要 肚痛ありて
三要 足痛にて
四要 頭痛
五要 心胸痛
六要 怪異なる事有りて
七要 脾胃を痛む
八要 婦人に乳食を出さざる
九要 胎にある事を出さざる
十要 多汗治まらざる
乳母の食持ち方
乳母 病む時は子を又病む
母病む時は子を又病む
母病む時は子を又病む
汁の如く

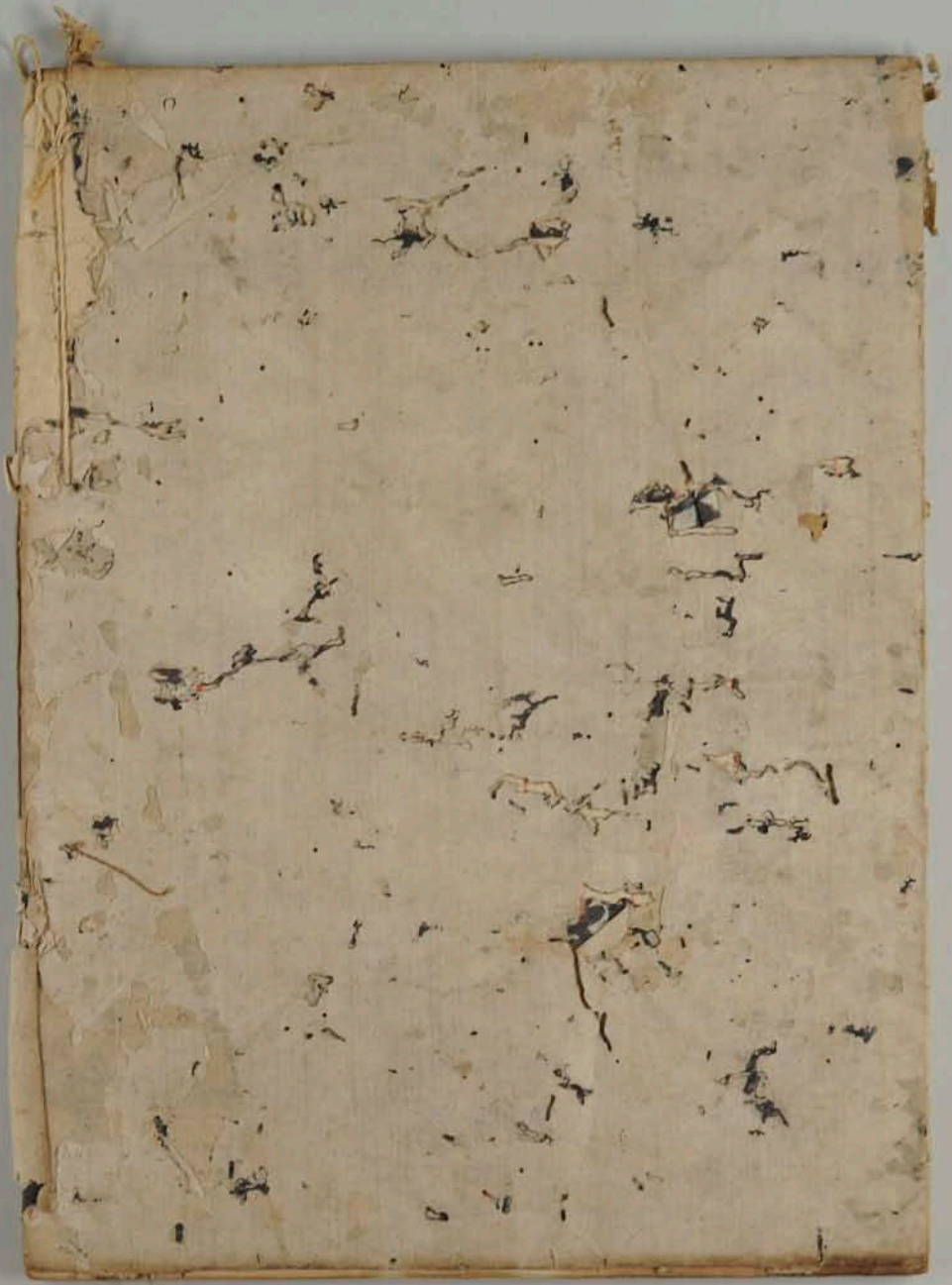
一　乳を吸ふ時は少し探(もと)りて吸ふ事　妻熱乳を吾
　　子に乳を吸はせ小児をして仰向(あおむ)けに寝(ね)
　　かせ乳房を口に含(ふく)ませ吸はせる事
一　小児の衣類は平生に温(あたた)かに熱(あつ)からざる事
　　を要す
一　小児母と同く眠る時は鼻口を乳房(ちぶさ)にて塞(ふさ)
　　ぐ事なし
一　小児天然痘(てんねんとう)初発(しょはつ)の時は乳母抱(だ)き乳(ちち)を与(あた)へ
　　ざる事　血液(けつえき)を清和(せいわ)し筋肉(きんにく)緻密(ちみつ)にして風(ふう)
　　邪(じゃ)に感(かん)じ難(がた)し　然(しか)れども初発の時は
　　筋骨軟脆(きんこつなんぜい)にして外邪(がいじゃ)を受(う)け易(やす)し　故(ゆえ)に
　　初発の三日間は乳母抱きて臥(ふ)すべし
　　病ひ少し　軽(かる)きの症(しょう)にても油断(ゆだん)すべからず
一　小児天然痘初発の時は胃(い)薬(やく)を与(あた)へて宜(よろ)
　　し　其(その)後(ご)は胃薬を与ふる事なし

一　小児天然痘初発の時は胃薬を与へて宜し　其後
　　は胃薬を与ふる事なし

しそ味淋ともよし

丹深う白小児ハ赤血ニ能ク入テ清熱ス故ニ
食ヒ多キ時ハ一般大腸胃薬ト為テ宜シカラス
澤瀉車前牛膝頭痛眩暈耳鳴ニ宜シ
猪苓ハ利水ノ効アリ白濁ニ用ユ
痛ミ無キ者ハ用ヒス徳ノ高キ者ハ澤瀉ノ
性ヲ以テ能ク水ヲ利ス
茯苓ハ能ク水ヲ利シ痛ミ無キ者ニ用ユ
茯神ハ心ニ入テ安神ス
右六種生薬浸剤機要ニ載スル所ニ相違ナシ
心ニ因リ浸書見合種ヲ添テ差出ス
薬機要ニ依リ小児表ニ記ス所ノ分量ヲ以テ和解
セラルヘシ

月日

渡辺愛親ヨリ
通起

用紙御指之段
大清光緒十七年己卯八月廿五日写之
松岡
富宗